

新越精工 株式会社

DX宣言書

2026年9月18日
新越精工 株式会社
代表取締役 出雲 翔

□ 経営理念

- 私達は自由で闊達な社風を営み、社会に貢献する事業の創造と革新に努めます
- 私達は常にお客様に喜んでいただくことを通じて、豊かな未来を築きます
- 私達は勇気と責任感ある行動のもとに、明るい人間集団を形成します

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用して業務を効率化し、情報や技術・ノウハウを社員が活用できる仕組みを整えることで、一人ひとりが本来の業務や改善活動に集中できる職場環境を整備します
- ◆ 生産・出荷データを活用して生産性と品質を高めるとともに、業務効率化によって生まれた時間を新たな価値創出につなげ、事業領域を拡大し、多様なニーズに応えられる企業へ成長します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2026年12月)

戦略 「業務の標準化と情報共有基盤の構築」

- 施策
- ・ 情報の分散・属人化を解消するため、社内サーバーを活用し、製品の立ち上げ経緯から現在までの製品情報を集約・共有する環境を整備
 - ・ 在庫数を正確に把握するため、受発注と在庫の情報を連携し、外注展開品や稼働数の多い製品から在庫数を可視化
 - ・ 受発注業務の属人化を解消するため、材料所要量から発注数量を自動算出する仕組みを構築
 - ・ 事務負担を削減するため、紙・FAXで受け取る情報を電子化し、一元管理する運用を整備

➤ フェーズ2(2027年1月 ～ 2027年12月)

戦略 「データ活用による業務効率化と現場の生産性向上」

- 施策
- ・ 生産・稼働実績の入力負担とヒューマンエラーを削減するため、機械からデータを自動取得する仕組みを、対応可能な設備から順次導入
 - ・ 見積業務の属人化を解消するため、過去の懸念・要望事項をデータベース化し、類似事例を検索・参照できる仕組みを構築
 - ・ 不具合・トラブルの再発防止に向けて、発生内容や対応策をデータで蓄積し、原因分析と対策に活用できる仕組みを構築
 - ・ 段取り作業を効率化するため、製品ごとの技術情報をタブレットで参照できる仕組みを整備
 - ・ 在庫数や現品の照合ミスを防ぐため、バーコード等を活用した現品管理を実施可能な範囲から段階的に導入

➤ フェーズ3(2028年1月 ～ 2028年12月)

戦略 「データ活用による生産性向上と組織力強化」

- 施策
- ・ 事務作業を削減するため、タイムカードの廃止等、バックオフィス業務のデジタル化を推進
 - ・ 迅速な意思決定に向けて、生産状況・稼働データをダッシュボードで可視化し、現場と経営の判断に活用
 - ・ 計画的な出荷に向けて、生産・出荷状況を踏まえて段取りを見直し、余裕を持った生産・出荷体制を構築
 - ・ 技術継承に向けて、技術・ノウハウを共有・活用する仕組みを定着させ、個人の知見を組織で活用
 - ・ 現場の主体的な改善活動に向けて、蓄積したデータをもとに課題や改善案を共有・検討する仕組みを定着

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 紙の使用量削減率 : 2025年度比 50%削減(～2028年12月)
- ・ 段取り時間 : 2025年度比 20%削減(～2028年12月)
- ・ 人時生産性 : 2025年度比 15%向上(～2028年12月)